

釣れ釣れなるままに

2007年度思い出の釣行記 PART. 1

# オースパの巻

## 鹿島釣狂



12日の釣果 635匹

☆釣行日 平成20年1月12日(土) 11:00~15:00  
☆入釣場所 砂川オアシスパーク遊水池  
☆天候 曇り  
☆エサ 紅サシ(ラビット)  
☆釣果 ワカサギ 635匹(3cm~5cm)

冬の風物詩であるワカサギ釣りの状況を確認するために砂川オアシスパークへと偵察に向かった。管理事務所前にある駐車場から遊水池を望むと、ようやく氷が張ったばかりなのか管理事務所前側では釣り人が居らず、遊水池南側でワカサギ釣りのテントが1つ見えるだけだった。早速我が家に戻って、今年のワカサギ釣りシーズンに備えてテントや仕掛け等を確認した。

1週間後、満を持して遊水池南側にある駐車帯に向かうと、10台ほどが停めてあった。この駐車帯は西豊沼の田下農園さんが全くのボランティアで除雪整備してくれており、遊水池までの通路もスノーボードで踏み固めてくれている。田下氏もワカサギ釣りをするのだが彼に会った時には、このお骨折りに感謝とねぎらいの言葉をかけている。また、水槽で大型の熱帯魚を飼っているらしく、外道のウグイが掛かったときには生かしておいて、熱帯魚の生きエサとして渡している。

遊水池の氷の厚さは10cmほどだが、その上に降り積もった雪がシャーベット状になりズブズブとぬかるむ。足下を周りの雪で整備してからテントを張り仕掛け等を準備して11時頃から始めた。



西豊沼の田下氏が駐車帯の除雪や遊水池までの通路を整備してくれており、その恩恵にあずかる。



手前が私のテントである。(140cm×140cm×145cm)。テントの天井部分は換気窓が広く開いているので、風通しが良く日が陰るとすぐに冷え込んでしまう。テント出入り口の裾にもファスナーがついていないためにすきま風が入る。一酸化炭素中毒とは無縁のようだ。2時過ぎには雪模様になってきて氷穴の表面が凍り始めたので手元コンロ(ガス式)をつけた。手をかざすとほのかな湯気が上がった。テント内を温めるほどの力はないが、手や氷穴のしばれを防ぐには十分である。

仕掛けは、市販のテントワカサギ2号5本袖バリで、棒状の大きな鉛を取り外して1号のオモリに付け替えたものである。さらにワカサギがハリを啜えた時の違和感を極力少なくしようと、道糸にフライで使っているインジケーターと小さなウキを付けて調整してみた。すると、水面下でウキがふわふわと漂い、いわゆるフカセ釣りのようになった。



オモリが1号なのでインジケーター2個では沈んでしまう。トップに小ウキをつけるとそのウキが中層で漂うようになった。

竿の動きだけでアタリをとっていたこれまでの釣りとは違い、微妙なウキの動きであわせることができ順調に釣れ続く。また、ホームセンターで買ったラビットがよかったのか、マメにエサ替えしなくてもダブル、トリプルと釣れてくる。5本のハリ全部にワカサギが付いたときが2度あった。

夢中になっていると、突然、ズンと足下の氷が下がった。地震かなと思ったが、水が凍ったときにできる氷と水面との隙間が塞がった結果だということだ。氷は10cm以上もあり割れる心配はないが、気持ちが悪い。

しばらくやっていると、聞き覚えのある話し声がしたのでそちらのテントを訪問してみた。思った通り、仕事の関係でも親しくお付き合いさせていただいている友人たちである。二人とも永年このオアシスパークでワカサギ釣りに親しんできているが、現在ではウキ釣りに転向している。一人はサビキ仕掛けにイサダを擦りつけて振り込み、ワカサギ釣りというより防波堤でのチカ釣りの様相を呈している。テントの入り口を開けて2m程の溪流竿で、テント前に開けた穴に仕掛けを振り込んでいる。穴の周りにイサダが漂いマキエの効果を発揮して釣果は上々のようだ。彼は「他の者と同じ釣りをしていても面白くない。新たな釣りの方法を探ることに魅力を感じる。」と言うがその通りだと思う。

彼らが3時に引き上げたので、一人残った私も後を追うように引き上げた。635匹は過去最高の釣果となった。



友人のテントは、私のものより一回り大きかった。ストーブの熱でテントに穴を開けてしまい所々継ぎ接ぎがあるので、彼のテントを見つけやすい。私の入釣時には必ずといっていいほど発見している。

中を覗くと、ポット式石油ストーブ、風呂場用スノコの上に耐熱用シート、木製道具収

納箱、自作のハリ外し、イサダ付け器、昼食の鍋焼きうどん等々持ち込んでいる。それらを積んで移動するためのボブスレーも最大級のもので、引っ越し荷物一式を運んでいるようにも見える。

彼は昨年からウキ釣りでワカサギ釣りを楽しんでいる。オモリは2gほどの自作、仕掛けも1号袖バリを自分で結んで玄人肌の釣りをしている。私は、1.5号でもエサを付けるのに手間取って2号を用いているので、1号ハリなど気の遠くなる話である。彼はこの日1日で1000匹ほどの釣果を上げていた。

☆釣行日	平成20年1月14日(月)	9:30~15:00
☆入釣場所	砂川オアシスパーク遊水池	
☆天候	晴れ時々曇り	
☆エサ	紅サシ	
☆釣果	ワカサギ	562匹

先週、ホームセンターで買ったラビットは釣れ具合がよかったのだが、痩せていたためにハリに付けづらかった。そこで、栄養を付けてやろうとエサ箱に鶏卵を入れておいた。朝、それを足に引っかけてひっくり返し、卵が床に流れてしまった。慌てて拭き取ったが、少しは太らせることができたのだろうか。

今日は8:30には出かけたが、エサが頼りなくて砂川の釣り具店で紅サシを買った。結局、釣り始めたのは9:30頃になった。友人が先行しており、順調に釣れているようだった。今日は、仕掛けを秋田キツネ針2号に変え、オモリも0.5gに落としてウキを調整した。釣れるには釣れるのだが、先日ほどではない。ハリ掛かりが甘い気がするのだ。もう1本の竿を取り出し、オモリは変えないで、仕掛けを袖バリに替えてみると順調になってきた。大きめのワカサギは確実にハリ掛かりし、小さいワカサギの方はハリに掛かっていなくても、半分に切ったサシの先に食いついて離さないでいるのだ。

昼近くになって、携帯電話が鳴った。昨日、町の成人式に出席した折に、お付き合いのある方とワカサギ釣りの話になり、今日の釣りを約束していたのだ。「どのテントよ」と聞かれたので、テントから出て手を振ると、奥様とお子さんをお供にしてやってきた。大きなテントを設置し、奥様との間に小学校2年生の娘さんを入れて和やかに釣りを始めた。

子どもの歓声は本当にいいものである。屈託のないお子さんの声でテントの中の様子が手に取るように伝わってくる。テントの中で黙々と釣りにのめり込んでいたはずの大人たちの静寂を破って、明るい雰囲気湖面に広がっていくように感じた。

そのご家族は市販の仕掛けに付いたオモリのために大きなウキを付けている。旦那さんは2号、奥様は1.5号のハリを使っており、テントの中から聞こえてくる声から察すると奥様に軍配が上がっているようだ。お子さんも含めて3人で2本の竿を譲り合いながら釣っておられたので、私の道具立て一式を渡すと、お子さんがそれを使った。その後、お子さんの歓声の頻度が増したことから、小さな子どもにも有効であることが分かった。

次の日、先日の釣果と合わせてワカサギ1000匹程を職場に持っていった。夕食にワカサギの天ぷら1品を加えて、家族団欒のひとときに花を添えてくれたことと信じている。



家族3人が寄り添うようにワカサギ釣りを楽しんでいた。

「お父さん、また釣れたよ」「ほうすごいね。仕掛けがいいのかな」

「ウデがいいのですよ〜。お母さん、私が釣ったワカサギはイカダ焼きにしてね」

「イカダ焼きもいいけれど、お父さんの酒の肴に天ぷらもいいわね」



天ぷらにして食べてしまったので減ってしまっているが、2日間の釣果約1000匹。